

IV 施策の総合的展開の進捗状況一覧表

※ プロジェクト(PJ)に掲げた目標は欄外にPJ番号を表示し指標名の下に【】でPJ名を記載しています。

※ H28年度の実績値が把握できないもの、進捗区分が「C(進捗率が80%未満)」となった指標には、現状分析を記載しています。

※ 進捗区分:A(目安値を達成)、B(目安値に対する進捗率が80%以上)、C(目安値に対する進捗率が80%未満)

| 指標名 | 計画策定時の現状 | 目標 (平成29年度) | H25 | H26 | H27 | H28 | 進捗区分 | 現状分析・ 今後の取組 |
|-------------------------------|---------------------|---------------------|------------|--------------------|---------------------|---------------------|-------|--|
| | | | 目安値 実績値 | 目安値 実績値 | 目安値 実績値 | 目安値 実績値 | | |
| 1 産業・雇用 | | | | | | | | |
| 1-1 信州をけん引するものづくり産業の振興 | | | | | | | | |
| 製造業の付加価値額 | 2兆2,314億円 (H22年) | 2兆5,000億円 (H29年) | 2兆3,400億円 | 2兆3,800億円 | 2兆4,200億円 | 2兆4,600億円 | 実績値なし | (現状分析) H26年の実績値は、目安値を下回っているものの情報産業等の増加によりH25年に比べ1,265億円の増加となっている。 (今後の取組) 航空機産業や食品産業など、県内産業の強みを活かした成長期待分野への展開支援や新たな産業の創出を促進することにより、県内産業の高付加価値化を図る。 |
| | | | 1兆8,394億円 | 1兆9,659億円 | - | - | | |
| 企業誘致件数 【1次世代産業創出PJ】 | 34件 (H23年) | 200件 (H25～29年累計) | 40件 | 80件 (H25～26年累計) | 120件 (H25～27年累計) | 160件 (H25～28年累計) | A | (今後の取組) 引き続き、今後成長が期待される産業分野やICT産業などに重点を置いた企業誘致に取り組んでいく。 |
| | | | 45件 | 115件 | 141件 | 177件 | | |
| 1-2 強みを活かした観光の振興 | | | | | | | | |
| 観光地利用者数 | 8,435万人 (H23年) | 9,000万人 (H29年) | 8,619万人 | 8,713万人 | 8,807万人 | 8,903万人 | A | (今後の取組) 「信州デスティネーションキャンペーン」等の機会を最大限活用して、誘客促進及び滞在拡大を図るとともに、地域経済を支える様々な産業と観光を繋げて地域の活性化に取り組む観光地域づくりを進める。 |
| | | | 8,555万人 | 8,418万人 | 9,331万人 | 8,958万人 | | |
| 観光消費額 【2農山村産業クラスター形成PJ】 | 3,063億円 (H23年) | 3,300億円 (H29年) | 3,140億円 | 3,179億円 | 3,219億円 | 3,259億円 | C | (現状分析) H28年の全国延べ宿泊者数は前年を下回っており、長野県内においても前年開催の善光寺御開帳等の大型イベントの反動減や天候不順等の影響により、前年を下回ったことから目安値に達しなかった。 (今後の取組) 「信州デスティネーションキャンペーン」等の機会を最大限活用して、誘客促進及び滞在拡大を図るとともに、地域経済を支える様々な産業と観光を繋げて地域の活性化に取り組む観光地域づくりを進める。 |
| | | | 3,148億円 | 2,974億円 | 3,302億円 | 3,094億円 | | |
| 旅行者満足度 | - | 大変満足 20.0% | 16.0% | - | 18.0% | - | 実績値なし | (現状分析) H26年度以降、観光地満足度調査を実施していないが、観光庁による「観光地点パラメータ調査結果」によると、長野県来訪に係る総合満足度において「大変満足」が、H27年度20.8%、H28年度22.3%、また、再来訪意向において「大変そう思う」が、H27年度17.5%、H28年度29.8%と推移しており、来訪者の満足度は高まっているものと考えられる。 (今後の取組) 「ずく出し！知恵出し！おもてなし」プロジェクト(おもてなし未来塾の実施等)を通じ、来訪者の満足度向上に引き続き取り組む。 |
| | | | 29.0% | - | - | - | | |
| | - | 必ず再訪したい 20.0% | 16.0% | - | 18.0% | - | 実績値なし | |
| | | | 20.8% | - | - | - | | |
| 外国人宿泊者数 【2農山村産業クラスター形成PJ】 | 20万3千人 (H23年) | 50万人 (H29年) | 32万8千人 | 37万1千人 | 41万4千人 | 45万7千人 | 実績値なし | (現状分析) 台湾、香港、東南アジアからの宿泊者数が大幅に伸びており、県内の外国人宿泊者数は順調に推移していると見込まれる。 (今後の取組) これまでのターゲット(東アジアや東南アジア)に加え、欧米市場や新興市場(フィリピン、ベトナム)でのプロモーション活動を進め、現地の主要旅行会社等との連携を強化しながら、引き続き、外国人旅行者の誘客拡大を図る。 |
| | | | 36万1千人 | 46万5千人 | 70万8千人 | - | | |

| 指標名 | 計画策定時の現状 | 目標 (平成29年度) | H25 | H26 | H27 | H28 | 進捗区分 | 現状分析・ 今後の取組 |
|-------------------------------------|-------------------------------|--------------------------|--------------------|--------------------------|---------------------------|---------------------------|------|---|
| | | | 目安値 | 目安値 | 目安値 | 目安値 | | |
| | | | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | | |
| 1-3 夢に挑戦する農業 | | | | | | | | |
| 農業農村総生産額 【2農山村産業クラスター形成PJ】 | 2,908億円 (H22年度) | 3,050億円 | 2,968億円 | 2,996億円 | 3,015億円 | 3,033億円 | A | (今後の取組) 引き続き、企業の経営体の育成や新規就農者の確保を図るとともに、生産コストの削減や革新的農業技術の開発などに加え、ブランド化や6次産業化の推進により、農業者の一層の所得向上を図る。 |
| | | | 3,031億円 | 3,019億円 | 3,118億円 | 3,117億円 | | |
| 企業的農業経営体等の数 | 7,939経営体 (H22年度) | 9,000経営体 | 8,200経営体 | 8,400経営体 | 8,600経営体 | 8,800経営体 | C | (現状分析) 個人経営ではなく、複数戸から構成される大規模法人経営体(集落営農法人等)の育成が進んだことから目安値に至らなかった。 (今後の取組) 経営管理能力向上のための研修会等を通じて企業的経営体の確保と育成を進める。 |
| | | | 7,947経営体 | 7,991経営体 | 8,267経営体 | 8,415経営体 | | |
| 耕地面積 【3環境・エネルギー自立地域創造PJ】 | 111,200ha (H22年度) | 109,000ha | 110,200ha | 109,900ha | 109,600ha | 109,300ha | C | (現状分析) 農業者の高齢化による離農や規模縮小が進む中、新規就農者の確保や担い手への農地集積を進めたが、宅地等への転用や耕地の荒廃などが進んだため目安値に至らなかった。 (今後の取組) 遊休農地の発生防止や再生・活用などに取り組むほか、農地中間管理機構を活用した担い手への農地の集積・集約化を進めていく。 |
| | | | 110,400ha | 109,900ha | 108,900ha | 108,000ha | | |
| 遊休農地の再生・活用面積 【3環境・エネルギー自立地域創造PJ】 | 393ha (H22年度) | 600ha | 600ha | 600ha | 600ha | 600ha | A | (今後の取組) 再生可能な遊休農地に対しては、荒廃農地等利活用促進交付金を活用した再生・利用を推進するとともに、再生困難な山林・原野化した遊休農地に対しては、適切に非農地判断を行い、農地以外の利用を図る。 |
| | | | 597ha | 646ha | 519ha | 991ha | | |
| おいしい信州ふーど(風土)の県民認知度 | 24.3% (H24年度) | 75.0% | 55.0% | 60.0% | 65.0% | 70.0% | C | (現状分析) 「おいしい信州ふーど(風土)」大使・公使等による情報発信の成果として「信州サーモン」、「ナガノパープル」、「シナノゴールド」など個々の食材の認知度は概ね9割以上となったが、「おいしい信州ふーど(風土)」の認知度は目安値を達成できなかった。 (今後の取組) 「おいしい信州ふーど(風土)」を販売・提供しているお店として登録されている飲食店や販売店、宿泊施設との連携を更に強化するとともに、銀座NAGANO等での情報発信の促進、商談会やトップセールスの開催など、魅力を発信する。 |
| | | | 40.3% | 52.2% | 66.0% | 54.1% | | |
| 1-4 森林を活かす力強い林業・木材産業づくり | | | | | | | | |
| 民有林の間伐面積 | 23,888ha (H23年度) | 94,000ha (H25～29年度累計) | 22,000ha | 42,000ha (H25～26年度累計) | 61,000ha (H25～H27年度累計) | 78,000ha (H25～H28年度累計) | B | (今後の取組) 今後とも目標の間伐面積に向けて、事業主体が行う取組を支援することにより、計画的な間伐を推進する。 |
| | | | 21,821ha | 38,582ha | 53,803ha | 67,437ha | | |
| 素材生産量 【2農山村産業クラスター形成PJ】 | 329千m ³ (H23年度) | 610千m ³ | 330千m ³ | 420千m ³ | 600千m ³ | 605千m ³ | C | (現状分析) 予定していた信州F・POWERプロジェクトの木質バイオマス発電所の稼働が4年遅れることになったことにより、目安値を下回った。 (今後の取組) さらなる生産量の増加を目指して、原木の安定供給体制の構築、林業経営基盤の整備、様々な用途への県産材利用をより一層進める。 |
| | | | 437千m ³ | 437千m ³ | 501千m ³ | 498千m ³ | | |
| 県産材の製材品出荷量 | 109千m ³ (H23年度) | 184千m ³ | 130千m ³ | 144千m ³ | 180千m ³ | 182千m ³ | C | (現状分析) 製品需要の低迷及び信州F・POWERプロジェクトの製材加工施設の稼働率が低いことにより、目安値を下回った。 (今後の取組) 県産材製品の需要拡大及び出荷量の増加を目指して、販路拡大や加工体制整備の支援を一層進める。 |
| | | | 132千m ³ | 152千m ³ | 146千m ³ | 146千m ³ | | |

| 指標名 | 計画策定時の現状 | 目標 (平成29年度) | H25 | H26 | H27 | H28 | 進捗区分 | 現状分析・ 今後の取組 |
|--------------------------------------|----------------------------|--|--------|------------------------|------------------------|------------------------|-------|---|
| | | | 目安値 | 目安値 | 目安値 | 目安値 | | |
| | | | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | | |
| 森林(もり)の里親契約数 | 75件 (H23年度) | 125件 | 85件 | 105件 | 115件 | 115件 | A | (今後の取組) さらに取り組みが広まるよう契約件数を伸ばしていく。 |
| | | | 96件 | 112件 | 122件 | 126件 | | |
| ニホンジカによる農林業被害の減少市町村の割合 | 50% (H23年度) | 100% | 60.0% | 70.0% | 80.0% | 90.0% | C | (現状分析) 全県の被害額は下げ止まっているが、被害地域の拡大がみられる。 (今後の取組) ニホンジカの生息域拡大に伴う被害防止や警戒心が強く捕獲が難しくなったスレジカへの対応のため、様々な分野と連携して取り組む。 |
| | | | 57.0% | 60.0% | 65.3% | 65.8% | | |
| 1-5 地域の暮らしを支える産業の振興 | | | | | | | | |
| 創業支援資金利用件数 【1次世代産業創出PJ】 | 376件 (H23年度) | 3,600件(2,400件) (H25～29年度累計) ※この指標は、進捗状況良好なため、目標値の見直しを行いました。 | 480件 | 960件 (H25～26年度累計) | 2,160件 (H25～27年度累計) | 2,880件 (H25～28年度累計) | A | (今後の取組) 金融機関、ながの創業サポートオフィス等、関係機関の窓口で資金に関する利用方法を周知し、利用の円滑化を促進する。 |
| | | | 657件 | 1,398件 | 2,294件 | 3,397件 | | |
| 建設現場などの現場見学会等の参加者数 | 600人 (H23年度) | 10,000人(5,000人) (H25～29年度累計) ※この指標は、進捗状況良好なため、目標値の見直しを行いました。 | 1,000人 | 4,783人 (H25～26年度累計) | 6,600人 (H25～27年度累計) | 8,300人 (H25～28年度累計) | A | (今後の取組) 建設現場などの現場見学会等を通じて建設関連産業の振興に資するよう、活動を継続する。 |
| | | | 1,904人 | 4,783人 | 7,561人 | 11,787人 | | |
| 1-6 職業能力開発の推進と安心できる雇用・就業環境づくり | | | | | | | | |
| 就業率 【5雇用・社会参加促進PJ】 | 全国第1位 (58.9%) (H22年) | 全国第1位 (H29年) | — | — | 1 | — | 実績値なし | (現状分析) 国勢調査は5年ごとのためH28年度の実績値はないが、総務省労働力調査モデル推計値では、平成28年の年平均就業率は60.6%で前年値を上回り、全国順位も5位から4位に上昇している。 (今後の取組) 「アドバンス認証」の普及やITを活用した新たな働き方の普及による、多様で柔軟な働き方が選択できる環境づくりの推進や、子育て期女性の再就職支援の強化、効果的な情報発信による新規学卒者の県内就職支援に取り組む。 |
| | | | — | — | 2 (59.0%) | — | | |
| 県内高校生・大学生の就職内定率 【5雇用・社会参加促進PJ】 | 高校生99.6% (H23年度) | 高校生100% | 100% | 100% | 100% | 100% | C | (現状分析) 県内高校生の就職内定率は、H25年度、H26年度は5人の就職が決まらず99.8%、H28年度は昨年度に引き続き就職が決まらなかったのは1人で99.9%となり、目標の全員就職に近づいている。 (今後の取組) 引き続き、「長野県高校就職問題検討会議」での経済界と連携した取組推進、ジョブカフェ信州の出前講座による在学中の職業意識の醸成、地域・社会・産業界による学校でのキャリア教育支援等を通じた取組の推進する。 |
| | | | 99.8% | 99.8% | 99.9% | 99.9% | | |
| | 大学生93.9% (H23年度) | 大学生95.0% | 95.0% | 95.0% | 95.0% | 95.0% | A | (今後の取組) 引き続き、高校生や就活前の学生を対象に県内企業の魅力をアピールする業界研究会や県内企業の若手職員に委嘱して結成したシューカツNAGANO応援隊との交流会を開催するとともに、就活支援ポータルサイト「シューカツNAGANO」等による、学生や保護者に対する就職情報の提供や産学官連携によるインターンシップのマッチングの実施と県内企業に対する理解促進に取り組む。 |
| 94.1% | 95.5% | 96.6% | 97.0% | | | | | |
| ジョブカフェ信州利用者の就職率 | 37.5% (H19～23年度平均) | 50.0% | 50.0% | 50.0% | 50.0% | 50.0% | A | (今後の取組) 平成28年度新たに設置した上田サテライト・銀座サテライトも活用し、若者の社会的・職業的自立を支えるサポート・ステーションや長野労働局等関係機関と連携しながら、若者の就業支援を行う。 |
| | | | 53.6% | 65.6% | 64.1% | 69.0% | | |

| 指標名 | 計画策定時の現状 | 目標 (平成29年度) | H25 | H26 | H27 | H28 | 進捗区分 | 現状分析・ 今後の取組 |
|--|---------------------|---|----------|----------|----------|----------|-------|--|
| | | | 目安値 | 目安値 | 目安値 | 目安値 | | |
| | | | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | | |
| 障がい者法定雇用率の達成企業の割合 | 60.9% (H24年度) | 70.0% | 62.0% | 64.0% | 66.0% | 68.0% | C | (現状分析) H25年4月1日から法定雇用率が引き上げられたため(民間企業1.8%→2.0%)、達成企業の割合は計画策定時より低下したが(H24:60.9%→H25:53.5%)、H25年度以降は上昇を続けている。 (今後の取組) 障がい者雇用応援減税のPR、労働局と連携した事業所への働きかけとともに、障がい者と企業の出会いの場創出事業によるセミナー等を通じて積極的に企業の理解促進に向けた取組を進める。 |
| | | | 53.5% | 57.2% | 59.5% | 60.2% | | |
| 社員の子育て応援宣言！登録企業数 <small>※ながの子ども・子育て応援総合計画の策定に伴い、目標値を変更しました。</small> | 239社 (H24年11月末) | 1,500社 (500社) | 320社 | 360社 | 900社 | 1,200社 | B | (今後の取組) 引き続き企業訪問による啓発や働きかけにより、応援宣言の登録を促し、出産・子育てしやすい職場の環境整備を推進する。 |
| | | | 347社 | 675社 | 854社 | 1,078社 | | |
| 2 地域づくり | | | | | | | | |
| 2-1 魅力ある地域の創造と発信 | | | | | | | | |
| 健全化判断比率が早期健全化基準を下回る市町村数 | 77市町村 (H23年度決算) | 77市町村 | 77市町村 | 77市町村 | 77市町村 | 77市町村 | A | (今後の取組) 今後も必要に応じて市町村の行財政運営を支援する。 |
| | | | 77市町村 | 77市町村 | 77市町村 | 77市町村 | | |
| 地域おこし協力隊員の数 | 45人 (H24年7月末) | 230人(90人) <small>※この指標は、進捗状況良好なため、目標値の見直しを行いました。</small> | 54人 | 63人 | 165人 | 219人 | A | (今後の取組) 引き続き、研修会の実施やサポート体制の構築により隊員の受入・定着を支援する。 |
| | | | 73人 | 112人 | 205人 | 280人 | | |
| 都市農村交流人口 【6誇りある暮らし実現PJ】 | 546,544人 (H22年度) | 600,000人 | 560,000人 | 570,000人 | 580,000人 | 590,000人 | A | (今後の取組) 市町村、関係団体と連携を図りながら、県内各地で行われているグリーン・ツーリズム情報を発信することで、都市農村交流人口の拡大を進める。 |
| | | | 608,703人 | 599,351人 | 604,427人 | 624,909人 | | |
| 景観行政団体市町村数 | 12市町村 (H23年度) | 20市町村 | 16市町村 | 17市町村 | 18市町村 | 19市町村 | A | (今後の取組) 引き続き、景観行政団体への移行支援を進める。 |
| | | | 17市町村 | 18市町村 | 20市町村 | 21市町村 | | |
| 行政サポートによる移住者数 【6誇りある暮らし実現PJ】 【7活動人口増加PJ】 | 456人 (H23年度) | 1,000人 | 600人 | 700人 | 800人 | 900人 | A | (今後の取組) 引き続き、三大都市圏での移住相談の実施及び移住相談セミナーの実施を行う。 |
| | | | 510人 | 763人 | 927人 | 1,074人 | | |
| 信州ブランドの県民認知度 【9信州ブランド確立PJ】 | — | 80.0% | 50.0% | 60.0% | 70.0% | 75.0% | C | (現状分析) 県内外でワークショップを開催し、しあわせ信州の周知と認知度向上に努めたが、県政モニターアンケートの対象者が変更となった等の要因もあって、年代性別を問わず6割程度の認知度に留まった。 (今後の取組) 県民等へのワークショップやWebでのプロモーション等を通じ、全体の底上げを図る。 |
| | | | 71.4% | 65.3% | 72.7% | 56.7% | | |
| 都道府県別地域ブランドランキング 【9信州ブランド確立PJ】 | 17位 (H22年度) | 10位以内 | — | 13 | — | — | 実績値なし | (現状分析) 調査がH25年以降実施されていないが、「地域ブランド調査」によると平成28年の本県魅力度は第8位と高い状況にある。 (今後の取組) 信州のヒト、コト、モノをトータルに発信する役割を担う銀座NAGANOを核に、コアな信州ファンの増加を図る。 |
| | | | — | — | — | — | | |
| 2-2 協働、人権尊重、男女共同参画社会の実現 | | | | | | | | |
| 公共的活動への参加度 【7活動人口増加PJ】 | 36.6% (H24年度) | 50.0% | 39.3% | 42.0% | 44.7% | 47.4% | A | (今後の取組) 引き続き、協働コーディネートデスクの運営、NPO法人設立講座、NPO運営セミナー等を実施するとともに、「長野県みらいベース」、「長野県プロボノベース」を通じて資金・人材の両面からNPO支援を実施することにより、県民の公共的活動への参加促進を図っていく。 |
| | | | 39.5% | 34.7% | 43.6% | 58.7% | | |

| 指標名 | 計画策定時の現状 | 目標 (平成29年度) | H25 | H26 | H27 | H28 | 進捗区分 | 現状分析・ 今後の取組 | |
|--|------------------|------------------|------------|------------|------------|------------|-------|--|---|
| | | | 目安値 実績値 | 目安値 実績値 | 目安値 実績値 | 目安値 実績値 | | | |
| 人権侵犯事件の新規受理件数 | 436件 (H23年) | 現状以下 (H29年) | 436件以下 | 436件以下 | 436件以下 | 436件以下 | C | (現状分析) 学校でのいじめに関する受理件数は 昨年度より減少したものの、依然と して受理件数の中で大きな割合を占め ており、職場でのパワハラや、相隣間 の人権侵害等の受理件数は増加して いる。 (今後の取組) 引き続き、人権啓発センターや、こど も支援センター等の相談窓口の周知 を図るとともに、関係機関との連携を 強化し、人権侵害の解消、未然防止 に取り組んでいく。 | |
| | | | 514件 | 711件 | 684件 | 688件 | | | |
| 県の審議会等での女性委員の 割合 | 31.0% (H24年度) | 50.0% | 40.0% | 45.0% | 50.0% | 50.0% | C | (現状分析) 委員を依頼した分野において、専門 的な知見を有する女性が少ない等の 理由により選任できず、目安値に達し なかった。 (今後の取組) 引き続き審議会等の設置や委員の改 選時に担当課へのヒアリングを実施 し、女性委員の選任について助言等 を行っていく。 | |
| | | | 39.6% | 43.2% | 43.5% | 44.0% | | | |
| 県職員の管理職(課長級以上) に占める女性の割合 ※ 第4次長野県男女共同参画計画の 策定(H28.2.8)に伴い、「県職員の係長 以上に占める女性の割合」から指標を 変更しました。 | 4.8% (H27年度) | 6.5% (12.0%) | — | — | 4.8% | 5.7% | C | (現状分析) 女性職員について、監督職(課長補 佐級、係長級)は順調に登用が進ん でいるが、さらに上位の管理職(課長 級以上)はなお適任者の育成に時間 を要しており、目安値に達しなかつ た。 (今後の取組) 自己申告制度を活用しながら女性職 員の管理職への登用に努めており、 引き続き職域の拡大等と併せて取り 組んでいく。 | |
| | | | 3.7% | 4.2% | 4.8% | 5.4% | | | |
| 公立学校の女性 校長・教頭の割合 | 小中学校 | 12.7% (H24年度) | 15.0% | 13.2% | 13.6% | 14.1% | 14.5 | A | (今後の取組) 校内の指導的立場への積極的任用 や計画的な研修参加により、引き続 き女性管理職候補者の育成に努めて いく。 |
| | 高等学校 | 6.2% (H24年度) | 7.0% | 6.4% | 6.5% | 6.7% | 6.8 | | |
| | | | | 6.3% | 6.8% | 7.9% | 8.5 | | |
| 民間企業の課長相当職以上に 占める女性の割合 | 9.1% (H22年度) | 13.0% | — | 11.0% | — | — | 実績値なし | (現状分析) 現時点でH28年度の実績値はない が、民間企業の係長職相当の女性の 割合は、14.0%(H22年度)から23.5% (H26年度)に増加していることから、 課長相当職以上に占める女性割合 は、今後増加することが見込まれる。 (今後の取組) 引き続き、女性ロールモデルの紹介 やキャリア形成基礎講座の開催、啓 発事業の実施等により、女性の積極 的な登用について働きかけていく。 | |
| | | | — | 12.2% | — | — | | | |
| 行政と連携して地域で助け合い 活動等を行う外国籍県民の団 体数 | — | 10団体 | 2団体 | 4団体 | 6団体 | 8団体 | B | (今後の取組) 引き続き、様々な団体や行政機関等 からの情報を得ながら、行政と連携で きる外国籍県民の団体との繋がりを 確保していく。 | |
| | | | — | 2団体 | 4団体 | 7団体 | | | |
| 3 環境 | | | | | | | | | |
| 3-1 低炭素で循環型の地域社会づくり | | | | | | | | | |
| 県内の温室効果ガス総排出量 (平成2年度(1990年度)比) | 8.7% (H21年度) | ▲6.0% | 1.4% | ▲0.5% | ▲2.3% | ▲4.2% | 実績値なし | (現状分析) 現時点では、H28年度の実績値はな く、県内の温室効果ガス総排出量(排 出係数固定)は、2010(H22)年度以 降減少していたが、2013(H25)年度 は1542.6万t-CO2となり、昨年度より 若干増加(0.3%増)している。 特に家庭、業務部門での伸びが顕著 となっている。 (今後の取組) H29年度に環境エネルギー戦略の中 間見直しを行い、従来の施策効果を 検証し、効果的な施策の新設、拡充 等を検討し、目標の達成に向けた取 組を推進していく。 | |
| | | | 0.8% | — | — | — | | | |

| 指標名 | 計画策定時の現状 | 目標 (平成29年度) | H25 | H26 | H27 | H28 | 進捗区分 | 現状分析・ 今後の取組 | |
|--|---------------------|--|----------|----------|----------|----------------|-------|--|--|
| | | | 目安値 | 目安値 | 目安値 | 目安値 | | | |
| | | | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | | | |
| 発電設備容量でみるエネルギー自給率 【3環境・エネルギー自立地域創造PJ】 | 58.6% (H22年度) | 100%(70.0%) ※この指標は、進捗状況良好なため、目標値の見直しを行いました。 | 63.5% | 65.1% | 86.0% | 93.0% | B | (今後の取組) 自然エネルギーの導入拡大のため、地域で担い手となる人材の育成等や環境エネルギー分野の産業化を促進する。 また、環境エネルギー性能等の検討制度、信州型住宅リフォーム助成金等により、建物の省エネルギー化を促進する。 | |
| | | | 70.0% | 78.9% | 80.3% | 91.0% (暫定値) | | | |
| 1人1日当たり一般廃棄物排出量 | 862g (H22年度) | 800g以下 | 837g | 826g | 815g | 805g | 実績値なし | (現状分析) 現時点では、H28年度の実績値はないが、直近のH27年度は836gとなり、H26年度から続けて都道府県別で少なさ全国第1位となった。 (今後の取組) 引き続き、減量化に向けた3R(発生抑制、再使用、再生利用)の取組を推進していく。 | |
| | | | 847g | 838g | 836g | - | | | |
| 産業廃棄物総排出量 ※長野県廃棄物処理計画(第4期)(H28.3)の策定に伴い、目標値を変更しました。 | 3,709千t (H20年度) | 4,363千t (3,600千t以下) | 3,631千t | 3,615千t | 3,600千t | 4,364千t | 実績値なし | (現状分析) 現時点では、H28年度の実績値はないが、直近のH27年度においては増加した。 (今後の取組) 排出量が増加している業種や傾向等を把握し、引き続き、減量化に向けた3R(発生抑制、再使用、再生利用)の取組を推進していく。 | |
| | | | 4,341千t | 4,227千t | 4,529千t | - | | | |
| 3-2 豊かな自然環境の保全 | | | | | | | | | |
| 水質の環境基準達成率 | 河川 | 98.6% (H23年度) | 98.6% | 98.6% | 98.6% | 98.6% | 98.6% | A | (今後の取組) 未達成地点の解消に向け、引き続き、関係機関と連携し、一層の水質保全対策を推進する。 |
| | | | | 94.4% | 94.4% | 97.2% | 98.6% | | |
| | 湖沼 | 53.3% (H23年度) | 60.0% | 53.3% | 53.3% | 53.3% | 53.3% | C | (現状分析) 工場・事業場への立入検査による改善指導、農地での減肥対策や保安林の整備といった非特定汚染源対策などの効果により、COD濃度が前年度比で小さくなる湖沼も見られるものの、目安値の達成には至らなかった。 (今後の取組) 未達成地点の解消に向け、引き続き、関係機関と連携し、一層の水質保全対策を推進する。 |
| | | | | 33.3% | 40.0% | 40.0% | 38.5% | | |
| 希少野生動植物の保護回復事業計画策定種数 | 9種 (H23年度) | 16種(12種) ※この指標は、進捗状況良好なため、目標値の見直しを行いました。 | 11種 | 11種 | 13種(11種) | 14種(11種) | A | (今後の取組) 引き続き、保護回復事業計画の策定に取り組むとともに、策定済みの計画について評価検証を実施する。 | |
| | | | 11種 | 12種 | 13種 | 14種 | | | |
| 4 安全 | | | | | | | | | |
| 4-1 地域防災力の向上 | | | | | | | | | |
| 消防団協力事業所表示制度の認定事業所数 | 1,027事業所 (H23年度) | 1,500事業所 | 1,180事業所 | 1,260事業所 | 1,340事業所 | 1,420事業所 | C | (現状分析) H19年度以降優遇措置を実施し、事業所数は都道府県別で全国2位であるが、一定程度周知が進んでいることから、伸びが鈍化している。 (今後の取組) 引き続き、協力事業所に関する情報を発信するとともに、協力事業所の増加に向け優遇措置について見直しを検討する。 | |
| | | | 1,062事業所 | 1,072事業所 | 1,075事業所 | 1,134事業所 | | | |
| 自主防災組織率 | 90.8% (H23年度) | 93.0% | 91.6% | 91.9% | 92.3% | 92.6% | B | (今後の取組) 引き続き、市町村と連携して未加入世帯に対する自主防災組織への加入を働きかけるとともに、出前講座等を通じた自主防災組織の活性化を図る。 | |
| | | | 90.9% | 92.0% | 92.5% | 92.5% | | | |
| 地域特性に配慮した防災訓練実施市町村数 | 18市町村 (H24年度) | 77市町村 | 33市町村 | 44市町村 | 55市町村 | 66市町村 | A | (今後の取組) 引き続き市町村と連携を図り、地域特性に配慮した防災訓練の実施に取り組む。 | |
| | | | 30市町村 | 39市町村 | 51市町村 | 66市町村 | | | |

| 指標名 | 計画策定時の現状 | 目標 (平成29年度) | H25 | H26 | H27 | H28 | 進捗区分 | 現状分析・ 今後の取組 |
|--|---------------------------|--------------------------|-----------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|------|---|
| | | | 目安値 | 目安値 | 目安値 | 目安値 | | |
| | | | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | | |
| 浸水被害発生のおそれの高い 河川での浸水想定家屋数 | 41,700戸 (H23年度) | 24,000戸以下 | 30,500戸以下 | 27,000戸以下 | 25,500戸以下 | 24,500戸以下 | B | (今後の取組) 引き続き国に対して十分な財源確保 を働きかけるとともに、効果的な予算 配分かつ効率的な事業実施により、 浸水想定家屋数の減少を目指す。 |
| | | | 34,600戸 | 31,800戸 | 27,500戸 | 26,700戸 | | |
| 災害時要援護者関連施設の土 砂災害対策着手数 | 19施設 (H23年度) | 55施設 | 37施設 | 41施設 | 45施設 | 50施設 | A | (今後の取組) 引き続き、災害時要援護者関連施設 を保全する土砂災害対策を重点的に 取り組む |
| | | | 39施設 | 45施設 | 52施設 | 54施設 | | |
| 治山事業により保全される集落 数 | 56集落 (H23年度) | 470集落 | 190集落 | 257集落 | 330集落 | 400集落 | B | (今後の取組) 引き続き、山地災害危険地区等が存在 する集落の保全に努める。 |
| | | | 201集落 | 262集落 | 313集落 | 361集落 | | |
| 住宅の耐震化率 | 72.4% (H20年度) | 90.0% | 83.0% | 86.0% | 90.0% | 90.0% | C | (現状分析) 所有者の高齢化に加え、建物自体の 老朽化が進んできていることから改 修工事の費用がかかり耐震化が一 層厳しい状況となっている。また、県 民に対し、補助制度の情報等の浸透 が図られていない。 (今後の取組) 改修に係る助成額を拡充し、併せて 改修費拡充のPR(出張講座等)を行 い啓発の強化を図る。 |
| | | | 77.5% | 78.5% | 79.3% | 80.1% | | |
| 震災対策緊急輸送路にある橋 梁の耐震補強の整備率 | 83% (H23年度) | 100.0% | 91.0% | 93.0% | 95.0% | 97.0% | A | (今後の取組) 引き続き事業を推進し、要対策橋梁 の耐震補強を進める。 |
| | | | 95.0% | 97.9% | 97.9% | 97.9% | | |
| 4-2 県民生活の安全確保 | | | | | | | | |
| 犯罪(刑法犯)の発生件数 | 15,463件 (H24年) | 15,000件未満 (H29年) | 15,371件未満 | 15,279件未満 | 15,187件未満 | 15,095件未満 | A | (今後の取組) 県民への防犯情報の迅速な提供や 警察官の街頭活動などの取組を強化 し、発生件数の減少傾向の維持と県 民の体感治安の向上を図る。 |
| | | | 14,791件 | 13,206件 | 11,502件 | 10,664件 | | |
| 重要犯罪検挙率 | 65.6% (H20～24年平均) | 70.0% (H29年) | 70.0% | 70.0% | 70.0% | 70.0% | A | (今後の取組) 前兆事案等を的確に分析し、県民の 安全確保と被害の未然防止を図ると ともに、事案発生時には組織的な初 動捜査を展開して徹底検挙を図る。 |
| | | | 70.4% | 65.9% | 70.6% | 81.6% | | |
| 交通事故死傷者数 | 13,392人 (H24年) | 10,000人以下 (H29年) | 12,262人以下 | 11,132人以下 | 10,000人以下 | 10,000人以下 | B | (今後の取組) 高い割合を占める高齢者事故の抑止 対策を最重点に置き、分析結果に基 づいた街頭活動と、関係機関・団体と 連携した交通安全教育・広報啓発を 積極的に推進する。 |
| | | | 12,362人 | 11,586人 | 11,023人 | 10,447人 | | |
| 市町村消費生活センターの人口 カバー率 <small>※長野県消費生活基本計画・長野県消 費者教育推進計画の策定に伴い、目標 値を変更しました。</small> | 45.7% (H23年度末) | 100% (70.0%) | 48.2% | 57.0% | 65.0% | 80.0% | B | (今後の取組) 消費生活センター未設置の町村に対 し、個別訪問等により要請を行うと ともに、補助金活用の周知や相談員養 成講座の開催など、センター設置(広 域化を含む)に向けた支援を継続す る。 |
| | | | 50.4% | 57.0% | 74.2% | 76.8% | | |
| 食中毒発生件数 | 14.0件 (H19～23年度平 均) | 現状以下 (H25～29年度平 均) | 14.0件以下 | 14.0件以下 (H25～26年度平 均) | 14.0件以下 (H25～27年度平 均) | 14.0件以下 (H25～28年度平 均) | A | (今後の取組) ノロウイルスや細菌等による食中毒 を防止するため、引き続き長野県食 品衛生監視指導計画に基づき、重点 的かつ効果的な監視指導を実施して いく。 |
| | | | 17件 | 18.5件 | 15.3件 | 14.0件 | | |
| 薬事法監視実施率 | 26.7% (H23年度) | 30.0% | 27.8% | 28.4% | 28.9% | 29.5% | A | (今後の取組) 医薬品等の品質、有効性及び安全性 を確保するため、引き続き、薬事監視 員による医薬品等の製造・販売業者 等への立入調査を実施していく。 |
| | | | 29.7% | 28.3% | 30.7% | 29.5% | | |
| 5 社会基盤 | | | | | | | | |
| 5-1 高速交通・情報通信ネットワークの充実 | | | | | | | | |
| 県内高規格幹線道路の供用延 長 | 331km (H23年度) | 338km | 331km | 331km | 331km | 331km | A | (今後の取組) 引き続き、事業が円滑に進むよう国 や市町村と調整を図るとともに、財源 の確保や整備促進に向けて国等へ 働きかけていく。 |
| | | | 331km | 331km | 331km | 331km | | |

| 指標名 | 計画策定時の現状 | 目標 (平成29年度) | H25 | H26 | H27 | H28 | 進捗区分 | 現状分析・ 今後の取組 |
|--------------------------|-------------------------|---|-----------|-------------------------|--------------------------|--------------------------|-------|--|
| | | | 目安値 | 目安値 | 目安値 | 目安値 | | |
| | | | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | | |
| 信州まつもと空港利用者数 | 76千人 (H23年度) | 120千人 | 80千人 | 97千人 | 108千人 | 114千人 | A | (今後の取組) 福岡線利用拡大に向けた九州からのPR強化、季節運航便である大阪便の運航情報周知、航空会社への国際チャーター便就航の継続的な働きかけなど、空港の更なる利用促進を図る。 |
| | | | 85.0千人 | 96.8千人 | 116.5千人 | 124千人 | | |
| 超高速ブロードバンドサービスが利用可能な世帯割合 | 97.4% (H23年度) | 100% | 98.7% | 99.4% | 100% | 100% | A | (今後の取組) 総務省の推計では、平成26年3月末で100%となり目標を達成した。しかし、個別にみると依然として未整備の箇所があるため、引き続き通信事業者等へ該当箇所の整備を働きかけていく。 |
| | | | 100% | 100% | 100% | 100% | | |
| 電子申請利用件数 | 89,477件 (H19～23年度累計) | 219,000件(135,100件) (H25～29年度累計) ※この指標は、進捗状況良好なため、目標値の見直しを行いました。 | 26,100件 | 52,600件 (H25～26年度累計) | 129,000件 (H25～27年度累計) | 173,600件 (H25～28年度累計) | A | (今後の取組) 利用件数は順調に増加しており、今後も研修会を開催するなどして、更なる利用促進を図っていく。 |
| | | | 42,498件 | 85,285件 | 136,686件 | 202,060件 | | |
| 5-2 快適で暮らしやすいまちづくり | | | | | | | | |
| 公共交通機関利用者数 | 103,077千人 (H22年度) | 維持・向上 | 103,077千人 | 103,077千人 | 103,077千人 | 103,077千人 | 実績値なし | (現状分析) 平成27年度は、北陸新幹線の延伸及び善光寺御開帳の効果などにより、前年比5.4%増加となった。 (今後の方針) 利用者数の維持・向上に向け、市町村や事業者等への支援を引き続き行っていくとともに、関係者と協力して施策を展開していく。 |
| | | | 102,242千人 | 100,414千人 | 105,787千人 | - | | |
| 鉄道の営業キロ数 | 750.2km (H24年度) | 780.1km | 750.2km | 780.1km | 780.1km | 780.1km | A | (今後の取組) 今後も鉄道路線の維持・活性化に向けて、関係者と協力していく。 |
| | | | 750.2km | 780.1km | 780.1km | 780.1km | | |
| 国・県道の改良率 | 65.6% (H22年度) | 67.5% | 66.2% | 66.5% | 66.8% | 67.2% | 実績値なし | (現状分析) H28年度の実績値は集計中だが、H27年度実績は目安値に達していない。 未改良箇所がトンネルや橋梁の整備を要する山間部に多く、整備に長時間を要するため整備効果が改良率に反映しにくい状況である。 (今後の取組) 道路改良に対する県民のニーズは高いことから、引き続き整備を推進する。 |
| | | | 66.1% | 66.2% | 66.4% | - | | |
| 通学路安全対策着手率 | 46.0% (H25年1月末) | 100.0% | 58.8% | 71.6% | 84.4% | 93.6% | A | (今後の取組) 引き続き事業を推進し、通学路の安全対策を進める。 |
| | | | 63.2% | 78.9% | 88.8% | 98.5% | | |
| 用途地域内都市計画道路整備率 | 45.3% (H23年度) | 49.5% | 46.7% | 47.4% | 48.1% | 48.8% | B | (今後の取組) 引き続き、歩道のない通学路や踏切など危険な道路及び緊急輸送路の無電柱化を優先的に実施していく。 |
| | | | 46.8% | 47.5% | 48.1% | 48.6% | | |
| 市街地整備面積 | 2,726ha (H23年度) | 2,800ha | 2,750ha | 2,757ha | 2,786ha | 2,797ha | A | (今後の取組) 引き続き、まちの拠点となるエリアにおける都市基盤整備を推進していく。 |
| | | | 2,751ha | 2,758ha | 2,786ha | 2,799ha | | |
| 長期優良住宅の認定を受けた新築住宅の割合 | 18.1% (H23年度) | 20.0% | 18.8% | 19.1% | 19.4% | 19.7% | C | (現状分析) 認定住宅の件数は増加した(1,755→1,782)が、長期優良住宅の認定を受けない貸家の新築住宅件数が大幅に増加した(対前年比33.2%増)ことから、認定住宅の割合は前年度を下回った。 (今後の取組等) 長期優良住宅の認定メリットや関連した補助金等の支援策とともに、維持管理費の削減など、質の高い住宅とすることによる効果のPRにより、一層の普及促進を図る。 |
| | | | 14.6% | 14.0% | 16.2% | 14.8% | | |

| 指標名 | 計画策定時の現状 | 目標 (平成29年度) | H25 | H26 | H27 | H28 | 進捗区分 | 現状分析・ 今後の取組 |
|--|------------------|------------------|--------------------------------|---------|-------|-------|---------|--|
| | | | 目安値 | 目安値 | 目安値 | 目安値 | | |
| | | | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | | |
| 6 健康・福祉 | | | | | | | | |
| 6-1 健康で長生きできる地域づくり | | | | | | | | |
| 平均寿命 【4健康づくり・医療 充実PJ】 | 男性 | 80.88歳 (H22年) | 延伸 (H29年) | — | — | — | — | 実績値なし (現状分析) H27の数値は非公表のため把握できないが、H27年都道府県別年齢調整死亡率は男女ともH22年に比べ低下し、H22年に引き続きいずれも全国で最も低い。また、「長野県簡易生命表」による平均寿命は、H23に比べて延伸傾向にあり、平均寿命との相関が考えられる数値の状況から、概ね順調に推移しているものと想定される。 (今後の取組) 三大死因に対する診療機能の向上、地域医療体制の強化、健康づくりの県民運動「信州ACE(エース)プロジェクト」など引き続き推進していく。 |
| | | | | — | — | — | — | |
| | 女性 | 87.18歳 (H22年) | | — | — | — | — | |
| | | | | — | — | — | — | |
| 健康寿命 【4健康づくり・医療 充実PJ】 | 男性 | 79.46歳 (H22年) | 延伸 平均寿命との 差の縮小 (H29年) | 79.46 | — | — | — | 実績値なし (現状分析) H25の健康寿命は順調に延伸している。その後の実績値は把握できないが、第1号被保険者の要介護度2～5認定率は、H25年末9.88%からH28年末9.41%へと低下しており、健康寿命の維持・延伸に向けて概ね順調に推移しているものと想定される。 (今後の取組) 三大死因に対する診療機能の向上、地域医療体制の強化、健康づくりの県民運動「信州ACE(エース)プロジェクト」など引き続き推進していく。 |
| | | | | 79.80 | — | — | — | |
| | 女性 | 84.04歳 (H22年) | | 84.04 | — | — | — | |
| | | | | 84.32 | — | — | — | |
| 健康づくりのために運動や食生活に関する取組を行っている人の割合 【4健康づくり・医療 充実PJ】 | 運動 | 66.6% (H24年度) | 72.0% | 67.6% | 68.6% | 69.6% | 70.6% | C (現状分析) 実績値は上昇傾向にあるが、仕事や生活が忙しい中で運動に取り組む時間がない、面倒くさいと感じること等が目安値を下回った要因としてあげられている。 (今後の取組) 関係団体と連携・協力し、効果的な運動手法の普及や運動習慣定着を促進するとともに、ウォーキングコースの整備、情報発信等、運動習慣の定着に向けた環境整備を推進する。 |
| | | | | 64.4% | 62.6% | 65.7% | 67.5% | |
| | 食生活 | 84.5% (H24年度) | | 84.5% | 84.5% | 84.5% | 84.5% | |
| | | | | 87.2% | 84.6% | 84.6% | 84.1% | |
| メタボリックシンドロームが強く疑われる者・予備群の割合 | 男性 | 52.7% (H22年度) | 40.0%以下 | 46.0%以下 | — | — | 40.0%以下 | C (現状分析) 生活習慣改善に向けた取組を実施し男性は減少傾向にあるが、男女ともに目安値には達していない。 (今後の取組) 県民の運動習慣定着に向けた取組や食生活改善等、生活習慣の改善に関する各種の取組を継続して実施する。 |
| | | | | 40.9% | — | — | 49.6% | |
| | 女性 | 14.2% (H22年度) | | 12.0%以下 | — | — | 10.0%以下 | |
| | | | | 14.4% | — | — | 15.1% | |
| 1人1日当たりの食塩摂取量 | 11.5g (H22年度) | 9.0g未満 | 9.0g未満 | 10.3g以下 | — | — | 9.0g | C (現状分析) 減塩の重点的な普及啓発を実施し摂取量は減少しているが目安値には達していない。 (今後の取組) 減塩や野菜の摂取など健康に配慮したメニューを提供する飲食店等への支援などによる食環境の整備、健康ボランティアや関係団体と連携した健康な食生活に関する普及・啓発等に取り組む。 |
| | | | | 10.6g | — | — | 10.3g | |

| 指標名 | 計画策定時の現状 | 目標 (平成29年度) | H25 | H26 | H27 | H28 | 進捗区分 | 現状分析・ 今後の取組 | | |
|--------------------------|---------------------------|-------------------|------------------|-----------------|-----------------|------------------------|---------|--|--|--|
| | | | 目安値 | 目安値 | 目安値 | 目安値 | | | | |
| | | | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | | | | |
| 公共の場の受動喫煙防止対策実施率 | 県 | 本庁舎 | 84.6% (H24年度) | 100% | 87.7% | 90.8% | 93.9% | 97.0% | A | (今後の取組) 喫煙場所の見直しなど、引き続き公共の場における受動喫煙防止の完全実施に向けた取組に努める。 |
| | | 県有施設 | 90.5% (H24年度) | | 84.6% | 91.7% | 91.7% | 100.0% | | |
| | 市町村 | 本庁舎 | 68.8% (H24年度) | | 92.4% | 94.3% | 96.2% | 98.1% | B | |
| | | 市町村有施設 | 86.1% (H24年度) | | 90.9% | 96.3% | 96.3% | 97.5% | | |
| | | | | | 75.0% | 81.2% | 87.4% | 93.6% | C | |
| | | | | | 75.3% | 75.3% | 80.5% | 88.3% | | |
| 88.9% | 91.7% | 94.5% | 97.3% | C | | | | | | |
| 85.5% | 82.1% | 82.5% | 82.5% | | | | | | | |
| 自殺者数 【4健康づくり・医療充実PJ】 | 493人 (H23年) | 430人以下 (H29年) | 470人以下 | 460人以下 | 450人以下 | 440人以下 | A | (今後の取組) 各種相談、ゲートキーパーの養成、若年層向け啓発事業等に加え、日本財団との協働事業「日本財団いのち支える自殺対策プロジェクト」を推進する。 | | |
| 422人 | 436人 | 378人 | 339人 (概数) | | | | | | | |
| 要支援・要介護状態になる可能性のある高齢者の割合 | 運動機能が低下している者 | 7.2% (H22年度) | 6.2%以下 | 7.0%以下 | 7.0%以下 | 6.8%以下 | 6.6%以下 | 実績値なし | (現状分析) 国実施の調査項目がH27年度から変更となったため実績値はないが、65～69歳の要介護・要支援の認定を受けていない者の割合はH27年10月とH28年10月はともに97.7%であり、現状を維持していると想定される。 (今後の取組) 地域の介護予防事業に参画できる理学療法士・作業療法士等リハビリ専門職の育成などにより介護予防の普及・促進に向けた市町村の取組を支援する。 | |
| | | | | 6.9% | 6.7% | — | — | | | |
| | 低栄養状態にある者 | 1.2% (H22年度) | 0.9%以下 | 1.1%以下 | 1.1%以下 | 1.1%以下 | 1.0%以下 | 実績値なし | | |
| | | | | 0.6% | 0.6% | — | — | | | |
| | 口腔機能が低下している者 | 5.0% (H22年度) | 現状以下 | 5.0%以下 | 5.0%以下 | 5.0%以下 | 5.0%以下 | 実績値なし | | |
| | | | | 5.4% | 5.5% | — | — | | | |
| 人口10万人当たり医療従事者数 | 医師 | 205.0人 (H22年) | 230.0人 (H29年) | — | — | 219.0 | 223.0 | 実績値なし | (現状分析) 現時点でH28年度の実績値はないが、直近の実績値では216.8人と目安値に届かないものの増加している (今後の取組) 引き続き、ドクターバンク事業や県内医療機関等との連携により医師確保に取り組む。 | |
| | | | | — | — | 216.8 (H26.12.31現在) | — | | | |
| | 看護師 | 839.0人 (H22年) | 911.4人 (H29年) | — | 880.4人 | — | 901.0人 | A | | |
| | | | | — | 969.1人 | — | 1028.5人 | | | |
| 在宅での看取り(死亡)割合 (全国順位) | 全国1位 (20.2%) (H22年) | 全国上位を維持 (H29年) | 全国上位 | 全国上位 | 全国上位 | 全国上位 | 実績値なし | (現状分析) H28年実績値は公表されていないが、H27年実績は、全国5位(22.4%)と全国上位を維持している。 (今後の取組) 引き続き、24時間の在宅医療の提供ができる医療体制を支援する。 | | |
| | | | 全国4位 (21.4%) | 全国5位 (21.5%) | 全国5位 (22.4%) | — | | | | |
| 周産期死亡率 | 3.6人 (H22年) | 3.6人 (H29年) | 3.6人 | 3.6人 | 3.6人 | 3.6人 | C | (現状分析) H29年実績値(概数)によると目安値をわずかに上回っている。 (今後の取組) 引き続き、周産期死亡率が低く推移するよう、周産期医療体制の整備に努める。 | | |
| | | | 3.6人 | 3.1人 | 3.0人 | 3.7人 (概数) | | | | |
| がん75歳未満年齢調整死亡率 | 69.4人 (H23年) | 60.6人以下 (H29年) | 66.4人以下 | 65.0人以下 | 63.5人以下 | 62.0人以下 | 実績値なし | (現状分析) 総じて減少傾向にあり、実績値はないが概ね順調に推移していると考えている。 (今後の取組) がん検診の受診啓発や医療提供体制の整備等、総合的ながん対策を実施する。 | | |
| | | | 66.1人 | 68.3人 | 62.0人 | — | | | | |

| 指標名 | 計画策定時の現状 | 目標 (平成29年度) | H25 | H26 | H27 | H28 | 進捗区分 | 現状分析・ 今後の取組 | |
|--|------------------------|--|----------------------|------------------------|------------------------|------------------------|---------|--|---|
| | | | 目安値 | 目安値 | 目安値 | 目安値 | | | |
| | | | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | | | |
| 6-2いきいきと安心して暮らせる社会づくり | | | | | | | | | |
| 高齢者福祉施設 の入所定員数 ※長野県高齢者プラン、長野県障害福祉計画の策定に伴い、目標値を変更しました。 | 特別養護老人ホーム | 9,886人 (H23年度末) | 11,604人 (H29年度末) | 10,936人 | 11,035人 | 11,103人 | 11,240人 | A | (現状分析) 介護老人保健施設についてはH28に1施設(定員50名)が廃止したため、定員が減少した。 |
| | | | 11,035人 (平成26年度末) | 10,917人 | 10,894人 | 11,139人 | 11,251人 | | |
| | 介護老人保健施設 | 7,764人 (H23年度末) | 7,920人 (H29年度末) | 7,751人 | 7,787人 | 7,862人 | 7,891人 | C | |
| | | | 7,787人 (平成26年度末) | 7,707人 | 7,836人 | 7,862人 | 7,841人 | | |
| 地域包括ケア体制整備に取り組む日常生活圏域数 ※長野県高齢者プラン、長野県障害福祉計画の策定に伴い、目標値を変更しました。 | — | 全日常生活圏域 (155圏域) 全日常生活圏域 (156圏域) | 48圏域 | 77圏域 | 104圏域 | 130圏域 | A | (今後の取組) すべての市町村の日常生活圏域で、地域ケア会議が設置された。今後は、地域ケア会議の充実を図るため、研修の実施や情報交換の場を設けるなどの支援を行う。 | |
| | | | 103圏域 | 125圏域 | 150圏域 | 155圏域 | | | |
| 障害福祉施設入所者の地域生活への移行数 ※長野県高齢者プラン、長野県障害福祉計画の策定に伴い、目標値を変更しました。 | — | 312人 (H26～29年度累計) 649人 (H18～26年度累計) | — | 61人 | 132人 | 214人 | C | (現状分析) 地域生活への移行数は増加しているが、H28の実績値は目安値を下回っており、計画通りの地域移行が進んでいない。 (今後の取組) 引き続き、障がい者の生活の場、就労・日中活動の場の充実に努めるとともに、各圏域における障がい者を地域全体で支える体制づくり(地域生活支援拠点整備)の取組を県自立支援協議会を活用するなどして支援する。 | |
| | | | — | 37人 | 91人 | 170人 | | | |
| 障害者就職率 【5雇用・社会参加促進PJ】 | 48.6% (H23年度) | 55.0% | 49.9% | 51.2% | 52.5% | 53.8% | A | (今後の取組) 引き続き、OJT(職場実習)による障がい者の就労促進事業により、企業における職場実習の取組の拡大を図るとともに、障害者就業・生活支援センターによる一般就労に向けた個別支援の強化を図る。 | |
| | | | 52.6% | 55.0% | 53.8% | 55.6% | | | |
| 介護福祉士登録者数 | 20,741人 (H23年度末) | 31,541人 | 24,341人 | 26,141人 | 27,941人 | 29,741人 | A | (今後の取組) 引き続き、介護現場で働く者の資質向上、処遇改善等に取り組み、介護人材の確保を図る。 | |
| | | | 24,694人 | 26,962人 | 28,856人 | 30,596人 | | | |
| ボランティア活動リーダー養成講座修了者数 | 7,371人 (H19～23年度累計) | 7,500人 (H25～29年度累計) | 1,500人 | 3,000人 (H25～26年度累計) | 4,500人 (H25～27年度累計) | 6,000人 (H25～28年度累計) | C | (現状分析) ボランティア活動の中核的人材発掘は進めているが目安値を下回った。 (今後の取組) 福祉教育の理念に基づき、国も提唱する「地域共生社会づくり」を担う人材を発掘するために、啓発も重要だと考える。引き続き、研修会やフォーラムの開催及び養成講座の充実により活動の中核を担う人材養成の強化を図る。 | |
| | | | 410人 | 889人 | 2,106人 | 3,142人 | | | |
| 生活保護受給者のうち自立支援プログラムの適用を受けた者の就労率 | 29.2% (H23年度) | 31.9% | 29.7% | 30.3% | 30.8% | 31.4% | A | (今後の取組) 支援の具体的内容と手順を定めた個別の自立支援プログラムにより、ハローワークと連携して就労支援を実施し、被保護者の自立の助長を図る。 | |
| | | | 38.2% | 33.8% | 41.8% | 42.1% | | | |
| 母子家庭等就業・自立支援センター事業登録者の就業率 | 80.7% (H23年度) | 80.0% | 80.0% | 80.0% | 80.0% | 80.0% | A | (今後の取組) 引き続き就業支援員の求人開拓等の取組により、ひとり親家庭へ就業支援を行っていく。 | |
| | | | 80.2% | 84.3% | 78.2% | 81.5% | | | |
| 配偶者暴力相談支援センターの設置市町村数 | 0市町村 (H23年度) | 4市町村 | 0市町村 | 1市町村 | 2市町村 | 3市町村 | C | (現状分析) H26年度以降新設する市町村がなく、1市町村で推移している。 (今後の取組) センターを設置する意義や、センターを設置する方法について、他県の取組等を参考にしながら、特に女性相談員を配置している市にセンター設置を働きかけていく。 | |
| | | | 0市町村 | 1市町村 | 1市町村 | 1市町村 | | | |

| 指標名 | 計画策定時の現状 | 目標 (平成29年度) | H25 | H26 | H27 | H28 | 進捗区分 | 現状分析・ 今後の取組 | |
|---------------------------------------|---------------------|------------------|-------|-------|-------|-------|-------|---|--|
| | | | 目安値 | 目安値 | 目安値 | 目安値 | | | |
| | | | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | | | |
| 7 教育・子育て | | | | | | | | | |
| 7-1 子ども一人ひとりの個性や能力を伸ばす学校教育の充実 | | | | | | | | | |
| 「授業がよく分かる」と答える児童生徒の割合 | 73.7% (H24年度) | 76.0% | 74.2% | 74.6% | 75.1% | 75.5% | C | (現状分析) 各学校で「授業がもっとよくなる3観点※」を意識した授業改善に取り組んでいるものの、数値は下がった。 ※「ねらいを明確にする」「めりはりをつける」「ねらいの達成を見届ける」 (今後の取組) 「3観点」の質的向上を図り、「子どもと共に創る授業」のよさをさらに普及していく。 | |
| | | | 76.8% | 75.0% | 75.6% | 74.8% | | | |
| 全国学力・学習状況調査【8教育再生PJ】 | | | | | | | | | |
| 「基礎的・基本的な内容の定着度」が全国平均より高い児童生徒の割合 | 小学校61.8% (H24年度) | 小学校65.0% | 62.4% | 63.1% | 63.7% | 64.4% | A | (今後の取組) 各校において全国学力・学習状況調査や学習内容が児童生徒に確実に定着しているか確認するために県が実施するP調査の結果を踏まえて、学力向上のPDCAサイクルを回すことで授業改善などを進め、基礎的・基本的な内容の定着を図っていく。 | |
| | | | 64.7% | 65.3% | 62.6% | 64.4% | | | |
| 「基礎的・基本的な内容の定着度」が全国平均より高い児童生徒の割合 | 中学校56.5% (H24年度) | 中学校60.0% | 57.2% | 57.9% | 58.6% | 59.3% | C | (現状分析) 一人一人の実態を把握し、放課後や休日における補足的な学習サポートを実施している学校の割合が全国平均より低いなど、指導と評価を一体化した取組が十分にできていないため、目安値に達しなかったと考えられる。 (今後の取組) 学力向上ミーティングや教育課程研究協議会などにおいてPDCAサイクルの具体的な例を紹介するなどして、各校において授業改善が進められるような支援をしていく。 | |
| | | | 54.5% | 58.1% | 55.5% | 54.2% | | | |
| 「学習したことを実生活の場面に活用する力」が全国平均より高い児童生徒の割合 | 小学校58.0% (H24年度) | 小学校60.0% | 58.4% | 58.8% | 59.2% | 59.6% | C | (現状分析) 主として活用に関する問題において全国平均正答率を下回る問題数が多いことから、長文で構成されたまとまった文章を読んで理解したり、自分の考えをまとめて文章化したりする力が十分についていないため、目安値に達しなかったと考えられる。 | |
| | | | 59.7% | 59.5% | 55.9% | 57.1% | | | |
| | 中学校53.8% (H24年度) | 中学校56.0% | 54.2% | 54.7% | 55.1% | 55.6% | C | (今後の取組) 指導主事の学校訪問支援や研修などの機会をとらえて、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を高める授業づくりについて一層周知していく。 | |
| | | | 52.3% | 54.7% | 49.2% | 52.2% | | | |
| 学力実態調査(高2)での基礎学力定着度(正答率) | 国語 | 63.4% (H21年度) | 65.0% | 63.7% | 64.0% | 64.4% | 64.7% | A | (今後の取組) 授業改善をより一層推進し、確かな知識・技能に裏付けられた思考力・判断力・表現力の育成を図っていく。 |
| | | | | 65.5% | 65.9% | 66.0% | 66.1% | | |
| | 数学 | 58.9% (H21年度) | 60.0% | 59.1% | 59.3% | 59.6% | 59.8% | A | |
| | | | | 61.6% | 61.7% | 62.1% | 62.3% | | |
| 英語 | 58.0% (H21年度) | 60.0% | 58.4% | 58.8% | 59.2% | 59.6% | A | | |
| | | | 60.9% | 61.0% | 61.1% | 61.2% | | | |
| 「将来の夢や目標をもっている」と答える児童生徒の割合 | 80.2% (H24年度) | 83.0% | 80.7% | 81.3% | 81.8% | 82.4% | C | (現状分析) 「社会的・職業的に自立した人間の育成」をめざし、キャリア教育の充実に取り組んだが、キャリア教育が職場見学や職業体験といった社会への出口への指導のみになりやすい結果、目安値に達していないと考えられる。 (今後の取組) 今後は、すべての教育課程によってキャリア教育に取り組むことや地域と連携しての学習の推進に重点を置き、進めていく。 | |
| | | | 81.2% | 80.0% | 79.1% | 78.6% | | | |
| 就業体験活動を実施した生徒数の割合(高校生) 【8教育再生PJ】 | 52.2% (H24年度) | 100.0% | 60.0% | 70.0% | 80.0% | 90.0% | A | (今後の取組) 目標達成に向けたキャリア教育支援事業の推進に努める。 | |
| | | | 60.4% | 71.7% | 80.2% | 90.1% | | | |

| 指標名 | 計画策定時の現状 | 目標 (平成29年度) | H25 | H26 | H27 | H28 | 進捗区分 | 現状分析・ 今後の取組 | |
|--|-------------------------|------------------|-------|-------|-------|-------|-------|--|---|
| | | | 目安値 | 目安値 | 目安値 | 目安値 | | | |
| | | | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | | | |
| 英語コミュニケーション能力水準 【8教育再生PJ】 | 英語検定 3級レベル (中学生) | 19.8% (H23年度) | 40.0% | 26.0% | 29.0% | 33.0% | 36.0% | C | (現況分析) 英語検定の評価基準が、単純な得点比較から「読む」「聞く」「話す」の各技能のバランスを求めるものに変更されたこともあり、全国的な傾向と同様、3級レベルの生徒の割合が下降した。 (今後の取組) 各校で生徒の実態に応じた独自のCan-Doリスト形式での学習達成目標を設定し、生徒の理解と表現の能力を伸ばす授業の推進していくとともに、言語活動の充実を意識した授業を通じ、コミュニケーション能力を育成していく。 |
| | | | | 28.2% | 33.2% | 33.7% | 31.0% | | |
| | 英語検定 準2級レベル (高校生) | 30.0% (H23年度) | 40.0% | 33.0% | 35.0% | 36.0% | 38.0% | | |
| | | | | 34.4% | 35.0% | 34.4% | 35.5% | | |
| 全国体力・運動能力、運動習慣等調査での体力合計点 【8教育再生PJ】 | 数値 | 49.1点 (H22年度) | 51点台 | 49.6点 | 49.9点 | 50.2点 | 50.6点 | C | (現況分析) 県内の中学生女子では運動好きな生徒の割合が全国平均よりも低く、運動をする習慣のない生徒が増えて低得点者の割合が高くなったこと、また、全国平均得点が大きく上昇したこともあり、目安値を下回った。 (今後の取組) 各校における体力向上プランを見直し、子どもたちが「伸びた・できた」ことが実感できる承認活動を位置付けた授業を推進する。また、長野県版運動プログラムの活用を推進し、幼児期から楽しみながら体を動かして遊ぶ習慣の定着を図る。 |
| | | | | 49.3点 | 49.5点 | 50.1点 | 50.1点 | | |
| | 全国順位 | 31位 (H22年度) | 10位台 | 29位 | 27位 | 25位 | 22位 | | |
| | | | | 29位 | 27位 | 19位 | 23位 | | |
| 毎日朝食を食べる児童生徒の割合 | 小6 | 91.2% (H24年度) | 93.0% | 91.5% | 91.9% | 92.2% | 92.6% | C | (現況分析) 全国的な傾向として、社会経済情勢の変化に伴い生活習慣が悪化している。(H28全国値:小6 87.3%、中3 83.3%) (今後の取組) 児童生徒に対する食育の推進に努めるとともに、あらゆる機会をとらえ家庭へ食習慣の安定の重要性を周知する。 |
| | | | | 91.1% | 90.9% | 89.9% | 89.7% | | |
| | 中3 | 85.1% (H24年度) | 87.0% | 85.4% | 85.8% | 86.2% | 86.6% | | |
| | | | | 86.4% | 86.0% | 85.2% | 85.7% | | |
| 学校満足度 【8教育再生PJ】 | 小学校 | 90.4% (H23年度) | 92.0% | 90.7% | 91.0% | 91.3% | 91.6% | C | (現況分析) 魅力ある教育課程を創り、子ども理解に基づいた子どもと共に創る授業に取り組んでいるものの、「授業がわかる」と回答した子どもの割合が伸び悩むなど、満足度向上に十分にはつながっていない。 (今後の取組) 一人一人が認め合える学級づくりやわかる授業づくりをさらに進めていくとともに、「授業がもっと良くなる3観点」の質的向上を図り、授業の中で子どもたちが友と学びを深めていくことの楽しさを実感できるようにする。 |
| | | | | 90.7% | 90.7% | 90.7% | 89.7% | | |
| | 中学校 | 85.7% (H23年度) | 90.0% | 86.5% | 87.3% | 88.2% | 89.1% | | |
| | | | | 86.6% | 87.0% | 87.0% | 89.7% | | |
| | 高等学校 | 75.3% (H24年度) | 80.0% | 76.2% | 77.2% | 78.1% | 79.1% | | |
| | | | | 76.5% | 77.3% | 78.3% | 79.2% | | |
| 信州型コミュニティスクールの実施割合(小・中学校) 【8教育再生PJ】 | 0% (H24年度) | 100% | 3.0% | 30.0% | 50.0% | 75.0% | A | (今後の取組) 取組の底上げや運営の充実を目指す市町村に対し、信州型CSアドバイザーの派遣、コーディネーター研修への参加促進など、重点的な取組を展開していく。 | |
| | | | 13.6% | 36.5% | 67.6% | 93.8% | | | |

| 指標名 | 計画策定時の現状 | 目標 (平成29年度) | H25 | H26 | H27 | H28 | 進捗区分 | 現状分析・ 今後の取組 |
|---|----------------------------|-----------------------|------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|-------|---|
| | | | 目安値 | 目安値 | 目安値 | 目安値 | | |
| | | | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | | |
| 小・中学校での不登校児童生徒 在籍率 | 1.14% (H23年度) | 1.08%以下 | 1.12%以下 | 1.11%以下 | 1.10%以下 | 1.09%以下 | 実績値なし | (現状分析) 本人の特性に加えて、家庭的な背景も要因となり、H26年度から、国と同様、上昇傾向にある。 (今後の取組) スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを活用し、児童生徒の心理面及び家庭環境の改善を図り、不登校の未然防止、早期対応、社会的な自立の支援を図る。 |
| | | | 1.18% | 1.22% | 1.26% | — | | |
| 特別支援学校高等部卒業生の 一般就労した生徒数の割合 | 62.8% (H23年度) | 65.0% | 63.5% | 63.9% | 64.3% | 64.6% | A | (今後の取組) 平成27年度に配置した特別支援学校就労支援コーディネーターにより引き続き各種関係機関と連携しながら、就労先の開拓や企業側に高等部生徒の作業学習への取組や生徒の可能性などを知ってもらう活動を継続して行っていく。 |
| | | | 58.2% | 60.3% | 62.1% | 77.5% | | |
| 7-2 子育て先進県の実現 | | | | | | | | |
| 県の推計値を上回る出生数 【7活動人口増加PJ】 | — | 600人 | 0人 | 100人 | 200人 | 400人 | A | (今後の取組) H30年度を初年度とする新たな子ども・若者支援の総合的な計画を策定し、様々な主体と連携した子育て支援の充実を図る。また、市町村や企業等と連携した結婚支援の充実を図るとともに、子どもを生み育てやすい社会とすべく、若年者の雇用環境の安定化と、仕事と家庭の両立への支援をより積極的に行っていく。 |
| | | | 156人 | 269人 | 640人 | 752人 (概数) | | |
| 合計特殊出生率 | 1.50 (H23年) | 1.54 (H29年) | 1.50 | 1.50 | 1.51 | 1.52 | A | (今後の取組) 引き続き、周産期死亡率が低く推移するよう、周産期医療体制の整備に努める。 |
| | | | 1.54 | 1.54 | 1.58 | 1.59 (概数) | | |
| 周産期死亡率<再掲> | 3.6人 (H22年) | 3.6人 (H29年) | 3.6人 | 3.6人 | 3.6人 | 3.6人 | C | (現状分析) H29年実績値(概数)によると目安値をわずかに上回っている。 (今後の取組) 引き続き、周産期死亡率が低く推移するよう、周産期医療体制の整備に努める。 |
| | | | 3.6人 | 3.1人 | 3.0人 | 3.7人 (概数) | | |
| 放課後子どもプラン(児童クラブ・子ども教室)登録児童数 ※ながの子ども・子育て応援総合計画の策定に伴い、目標値を変更しました。 | 27,307人 (H23年度) | 34,800人 (30,000人) | 28,700人 | 29,025人 | 33,400人 | 34,175人 | A | (今後の取組) 引き続き、県民のニーズに応えられるよう、市町村の取組を支援していく。 |
| | | | 28,979人 | 30,011人 | 33,466人 | 35,861人 | | |
| 病児・病後児保育利用可能市町村割合 ※第4次長野県男女共同参画計画の策定(H28.2)に伴い、「病児・病後児保育を実施している市町村数」から指標を変更しました。 | 63.6% (H23年度) | 76.6% (22市町村) | — | — | 70.1 | 74.0 | A | (今後の取組) 引き続き、多くの市町村で取組が進むよう支援を行う。 |
| | | | 64.6 | 67.5 | 75.3 | 76.6 | | |
| 里親等委託率 ※ながの子ども・子育て応援総合計画の策定に伴い、目標値を変更しました。 | 7.5% (H22年度) | 17.2% (12.4%) | 9.6% | 10.3% | 10.7% | 13.2% | A | (今後の取組) 引き続き、県民に対しフォーラム開催等による制度啓発を行うとともに、乳児院、児童養護施設、里親会等と連携し、里親委託推進に取り組む。 |
| | | | 10.7% | 10.1% | 11.5% | 13.2% (暫定値) | | |
| 7-3 生涯を通じた学びと文化・スポーツに親しむ環境づくり | | | | | | | | |
| 公民館での学級・講座参加者数 | 197,362人 (H24年度) | 210,000人 | 199,890人 | 202,417人 | 204,945人 | 207,472人 | A | (今後の取組) 市町村の公民館講座を企画運営する公民館主事の資質向上を図ることに伴い、地域住民の学習意欲の向上を支援していく。 |
| | | | 219,846人 | 207,242人 | 203,815人 | 207,769人 | | |
| 文化芸術活動に参加した人の割合 【6誇りある暮らし実現PJ】 | 62.5% (H24年度) | 70.0% | 64.0% | 65.5% | 67.0% | 68.5% | A | (今後の取組) 芸術監督団を配置するなど県内の文化活動を活性化するとともに、引き続き文化芸術の鑑賞・発表の機会を増やすため、県民芸術祭の主催やセイジ・オザワ 松本フェスティバルへの支援を行う。 |
| | | | 59.9% | 62.4% | 64.9% | 70.1% | | |
| 県立文化施設の利用者数 | 6,801,636人 (H19~23年度累計) | 維持・向上 (H25~29年度累計) | 1,360,400人 | 2,720,800人 (H25~26年度累計) | 4,081,200人 (H25~27年度累計) | 5,441,600人 (H25~28年度累計) | B | (今後の取組) 文化施設の利用者数は減少傾向であるが、広報活動の強化や芸術文化の鑑賞の機会を増やすなど利用率向上のための取組を進めるとともに、利用者が安全で快適な環境で芸術文化に親しめるよう施設など環境整備を進める。 |
| | | | 1,379,867人 | 2,693,114人 | 4,042,537人 | 5,230,416人 | | |

| 指標名 | 計画策定時の現状 | 目標 (平成29年度) | H25 | H26 | H27 | H28 | 進捗区分 | 現状分析・ 今後の取組 |
|---|-----------------------------|---|--------|--------|--------|--------|-------|---|
| | | | 目安値 | 目安値 | 目安値 | 目安値 | | |
| | | | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | | |
| 国・県指定等文化財の件数 | 1,175件 (H23年度) | 1,300件(1,250件) ※この指標は、進捗状況良好なため、目標値の見直しを行いました。 | 1,196件 | 1,210件 | 1,277件 | 1,290件 | A | (今後の取組) 国や関係市町村、文化財所有者等と連携を密にし、今後も保護すべき文化財について、着実な指定を進める。 |
| | | | 1,198件 | 1,255件 | 1,278件 | 1,295件 | | |
| 運動・スポーツ実施率 | 48.3% (H24年度) | 65.0% | 51.6% | 54.9% | 58.2% | 61.6% | C | (現状分析) 全国的にも運動・スポーツ実施率が低下傾向にあり、運動・スポーツを行う時間的余裕がないこと等の理由により、スポーツに関心を持っていても始める第一歩を踏み出せずにいる人が多く、目安値を下回った。 (今後の取組) より気軽に参加できる身近なスポーツ環境の整備を進めることにより、スポーツ無関心層も含めた多くの県民の参加を促す取組を推進する。 |
| | | | 51.6% | 47.4% | 45.1% | 49.3% | | |
| 国民体育大会天皇杯順位 | 17位 (H24年) | 15位以内 (H29年) | 17位以内 | 17位以内 | 16位以内 | 16位以内 | C | (現状分析) 冬季大会では好成績を収めたが、本国体出場をかけた北信越大会での出場権獲得数が前年度から減少したことが影響し、目安値に達しなかった。 (今後の取組) 競技団体は継続的な競技力向上事業に取り組んでおり、その結果、優秀な成績を収めている団体もある。さらに競技成績の向上を図るため、指導者の育成、ジュニア(次世代)の育成に向けた支援を行う。 |
| | | | 17位 | 20位 | 14位 | 19位 | | |
| 複数の分野に関連する目標(プロジェクトに直接設定) | | | | | | | | |
| 一人当たりの県民所得 【1次世代産業創出PJ】 ※実績値上段は県民所得の算出基礎となる県民経済計算の遡及改定後の値により算出した値、下段()は計画策定時の値 | 全国第25位 (第13位) (H21年度) | 全国第10位 以内 | 18位 | 16位 | 14位 | 12位 | 実績値なし | (現状分析) 公表されている最新の統計によると、H26年度の数値は2,821千円で、全国23位となっており、10位県や国民所得との差は縮小傾向にある。また、一人当たり家計可処分所得(いわゆる家計の手取り収入)は5年連続増加しており、全国8位となっている。 (今後の取組) 現在策定中のものづくり産業振興戦略プラン及びサービス産業振興戦略を施策の柱とし、製造業とサービス産業の振興を図ることで、県内産業の高付加価値化、生産性の向上を促進し、稼ぐ力を高める。 |
| | | | 26位 | 23位 | — | — | | |
| 自分の能力が仕事や公共的活動で発揮できていると思う人の割合 【5雇用・社会参加促進PJ】 | 68.6% (H24年度) | 75.0% | 69.8% | 71.1% | 72.4% | 73.7% | C | (現状分析) 能力を発揮できていると思う人の割合は前年度を上回ったが、目安値には達しなかった。「今後能力を発揮したいと思う場面」について、男女ともに50歳代までは「仕事」の割合が最も高くなっている。また、60歳代以降は年代が高くなるにつれて「仕事以外」の割合が増加している。 (今後の取組) 「アドバンス認証」やITを活用した新たな働き方の普及による、仕事と生活の両立促進、移住者支援や子どもの居場所での学習支援等へのシニアの参加促進に取り組むとともに、「一人多役」型の働き方・暮らし方による地域社会の仕組みづくりのための研究会を開催する。 |
| | | | 70.2% | 67.0% | 64.5% | 70.2% | | |
| 自分の暮らしている地域に誇りを感じる人の割合 【6誇りある暮らし実現PJ】 | 83.9% (H24年度) | 維持・向上 | 83.9% | 83.9% | 83.9% | 83.9% | C | (現状分析) H27年度と比較し2.9ポイント増加したが、年代別に見ると70歳代以上の評価が12ポイント上がり、全世代の中で最も高くなったものの、20歳代で△4ポイント、30歳代で△9ポイントと評価が下がり、目安値に到達しなかった。 (今後の方針) 誇りを感じる分野で評価の高かった「豊かな自然環境」「農山村景観」に係る取組(諏訪湖の環境改善、世界に誇る信州の農村景観の育成など)を引き続き推進していく。元気づくり実践塾の開催や地域おこし協力隊への支援を通じて、若い地域づくり人材を確保育成していく。 |
| | | | 84.6% | 79.9% | 80.6% | 83.5% | | |